

「連合2018平和行動in長崎」派遣団報告

語り継ぐ戦争の実相と運動の継続で、核兵器廃絶と恒久平和を実現しよう ～平和ナガサキ集會に、全国から約3,000人が参加～



連合2018平和ナガサキ集會のオープニングは
平和のハンドベル

オープニングはハンドベルで始まり、地元連合長崎の宮崎会長は開会の挨拶の中で、「皆さんが長崎で見たり聞いたこと感じたことを各地で伝えてほしい」と挨拶。参加者による黙祷、主催者を代表して連合相原事務局長は、「原爆投下から73年が経過し、その体験を語り継ぐ力が年々細ってきている。今年6月12日米国のトランプ大統領と北朝鮮の金正恩労働党委員長との史上初の米朝会談がシンガポールで開催された。両国の共同声明は非核化の一つの足掛かりとなると思う。しかし、残念ながら核放棄への具体性、さらには、その期限プロセス明確に示されていない。引き続き国際的努力の下、着実かつ、早急な非核化の実現が求められている。あらためて北朝鮮と向き合い、北東アジアの非核と平和実現に向けて全

8月8日、「連合2018平和ナガサキ集會」は、長崎県立総合体育館メインアリーナを会場に、全国から「戦後73年、未来につながる平和への想い」として連合組合員など約3,000名が参加し開催された。連合福島からは、派遣団として東白川地区連合議長の小針弘之さんを団長に、9名が参加してきました。

連合平和ナガサキ集會は、オープ



挨拶する相原康伸
連合事務局長



挨拶する地元連合長崎
宮崎辰弥会長

力で連合は求めていく。唯一の戦争被ばく国が果たす役割が極めて大きいものがある。」と挨拶しました。

翌、8月9日、11時2分には長崎は祈りの日を迎えた。式典では、長崎平和宣言の中で、核保有国と「核の傘」依存する国々に「核兵器に頼らない安全保障政策」に転換することを要求。日本政府にも唯一の戦争被ばく国として核兵器禁止条約に賛同し、世界を非核化に導く道義的責任を果



連合平和集會会場前にて

たすよう求める。」と市長がアピール、会場は、大きな拍手に包まれた。さらに、被爆者代表委員の田中さんは、核禁条約の採決を「これほどうれしいことはない」とし、日本の不参加には「極めて残念」と述べた。午後は、連合福島が作成したピース・ウォークに移り平和公園内や原爆資料館などの被ばく関係施設を視察し全行程を終え、参加者の「記憶に残る平和への誓い」確認し8月10日福島への帰路につきました。

参加者からの感想は次の通りです。「改めて戦争の悲惨さを感じ、二度と同じ過ちを犯してはいけないと強く思いました」、「戦争を直接知らない我々の世代やこれからの世代にも正しい戦争の歴史を伝え、永く平和な時代が続くよう、一人ひとりが願っていくことが大事だと思います」等、今から振り返っても大変貴重な体験をさせていただきました。

(記：県北地域連合事務局長 紺野 淳)



平和記念公園前にて